

氏名	塩 田 雄太郎
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1839 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Clinical Studies on Human Alveolar Macrophages （人肺胞マクロファージに関する臨床的研究） 第1編 Comparison of Chemotaxis of Human Alveolar Macrophages as Determined by the Agarose Plate Method and the Boyden Chamber Method （人肺胞マクロファージの走化能のアガローズ平板法とBoyden Chamber 法による比較） 第2編 Functions of Alveolar Macrophages Collected by Bronchoalveolar Lavage （気管支肺胞洗浄法により得られた人肺胞マクロファージの機 能）
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 粟井通泰 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1編 細胞の走化能を検討するには従来からの Boyden chamber 法と近年開発されたアガローズ平板法がある。9名の喘息患者，14名の健常人より得られた肺胞マクロファージを使用して両方法の反応条件，相関を検討した。両方法において走化能は反応時間及び走化性因子の濃度に依存性であることが明らかになった。また両方法で検討した走化能は有意に相関した。

第2編 肺胞マクロファージの走化能， β -galactosidase 活性，貪食能を喘息患者，サルコイドーシス患者，過敏性肺臓炎患者，健常人につき検討した。喘息，特に難治性喘息では走化能が著明に低下していた。サルコイドーシスでは， β -galactosidase 活性が，過敏性肺臓炎では β -galactosidase 活性と貪食能が亢進していた。喘息における肺胞マクロファージの役割は明らかでないが，その病態に肺胞マクロファージが関与していることが示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、Boyden chamber 法と近年開発されたアガローズ平板法で検討した細胞走化能は有意に相関することを先ず明らかにし、次で肺胞マクロファージの走化能・ β -galactosidase 活性・貪食能を喘息患者・サルコイドーシス患者・過敏性肺臓炎患者・健康人につき検討したもので、その結果それぞれの疾患で異常が認められ各病態に肺胞マクロファージが関与していることを示唆した価値ある業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。